

はかた中だより

第 15 号

令和4年12月23日

校訓 自らが学ぶ

学校の教育目標

豊かな心を持ち

主体的に行動する生徒の育成

TEL: (0897) 72-1055

FAX (0897) 72-1053



1 人権集会

12月7日(水)に、松山市の日赤から講師の先生を招聘し、人権集会を行いました。「人権とは、全ての人々が人と仲良くして、心豊かに幸せを感じながら人間らしく生きていくこと」という話から始まり、「愛の反対は無関心である。気

付き、考え、実行することが大切である。」と行動に移すことの大切さや、「簡単に仕方ないと言わない。」と困難に向き合うことの必要性を教えてくださいました。また、ウクライナ情勢を例として、「最大の人権侵害は戦争である。戦後には、人の死と憎しみ、国土の荒廃、貧困が残る。」とも語られました。大変印象深い講演会となりました。



生徒の感想を紹介します。

今回の講演会では、「気付き、考え、実行する」という言葉が心に残りました。私は、「気付き、考え」まではできるけど、最後の「実行する」ができないことが多くあります。これからは、勇気を出して実行するようになりたいと思います。また、何事にも関心を持つことが、どれだけ大切なことかが分かりました。自分が知らないうちに、人を傷つけているかもしれないので、普段から気を付けようと思います。(1年女子)

私は今まで、戦争やいじめが起こるのは、認め合いができていないからだと思っていました。もちろんそれもあると思うけど、やっぱり一番の原因は、無関心だということが分かりました。そして、一番印象に残ったことは、「気付き、考え、実行する」です。私は、気付き、考えはできるけど、いざ行動となると、戸惑うことが多くあります。だけど、人を思う気持ちを伝えたり、後悔がないようにするためには、実行することがとても大切だということが分かりました。(2年女子)

私は、講演を聞いて大事にしたいと思ったことが2つ、これから取り組んでいきたいと思ったことが1つあります。大事にしたいと思ったことの1つ目は、「気付き、考え、実行する」ということです。私は、「実行する」ところまでいけていないことが、多々あります。周りを見て、何をすべきかを考えることができているのに、手と足が出ないことが、短所だと思っています。講演の中で出てきた、中村哲さんは、国を越えてまで人を助けることに力を注いでいて、「行動だけを信じる」という言葉がとても印象に残り、私も中村さんのように、他人の命を救える人になりたいです。2つ目は、「仕方ない」を口癖にしないことです。私は、「仕方ない」とよく言うってしまう人間だということを、自覚していました。これは、現実から逃げていることに気が付いたので、「仕方ない」を簡単に言わないことにしました。これから取り組んでいきたいと思ったことは、人のためになることを進んで行うということです。私は、積極性がないことが短所だと思っています。その短所をなくすために、将来、世の中の役に立つ献血を行おうと思います。中村さんのような、みんなに尊敬される存在に近づきたいです。(3年女子)

2 情報モラル教室

12月12日(水)に、愛媛県警から講師を招き、情報モラル教室を開催しました。警察官がフィルタリングマンとして登場し、ネットに潜む危険、①ネット上の誹謗・中傷や不適切投稿、②知らない人に合わないこと、ネット上では、拡散されると完全な削除は不可能(デジタルタトゥー)であること、そしてトラブルにあった際の対処の仕方を教えていただきました。高度情報社会の中、ネットはとても便利なツールです。上手に使うと豊かな生活を送ることができる反面、誤った使い方をすると、トラブルや犯罪に巻き込まれる可能性があることを忘れてはなりません。



3 ものづくり体験講座発表会



12月14日(水)に、今治市長様をご臨席して下さる中、2年生が、ものづくり体験講座の発表会を行いました。6月のしまなみ造船所での進水式の見学から始まったものづくり体験講座では、多くの学びがあったことと思います。将来を考える、良い機会ともなったことでしょう。最後に、タブレットを活用し、プレゼンテーションの資料作りを行いました。現在、企業が求める人材の条件として、プレゼンテーション能力が大切になっています。その意味でも、良い経験になったことと思います。発表会を

成功裏に終えた2年生の表情は、どこか誇らしげでもありました。全員が、一回り成長したことを実感できたことでしょう。今後の学校生活に、ぜひ生かしてほしいと思います。

4 生徒会長選挙

2学期も押し迫った、12月21日(水)に、令和5年度の生徒会の中心となる、生徒会長選挙を行いました。この日まで、毎朝選挙運動を行い、最後に立会演説会で、すてきな公約を堂々と述べる姿は、10人全員が輝いていました。今回の選挙で何よりうれしかったことは、10人もの立候補者が出たことです。特に、女子は7人もが立候補しました。これは、「新しく活躍する場がほしい」「自分の可能性に挑戦したい」という意欲の表れだと感じています。生徒会長は、ただ1人、そして、その他の生徒会役員は3人。今回の選挙では、落選する生徒の方が多いのですが、立候補した勇気を忘れることなく、今後、学年のリーダーとしての自覚を持って、学校生活を送ってほしいと思います。当選した4人の生徒会役員は、新生徒会長を中心に、先輩たちが築いてきた伝統を継承しつつ、全校生徒が笑顔で楽しく生活できる学校を創ってほしいと思います。期待しています。



【家族の絆エッセイ(第5弾)】心温まるエッセイを紹介します。優秀賞受賞作品です。

「大切な家族」3年女子

私が、家族と離れて伯方島に来てから、約3か月が経つ。いつも、当たり前のように一緒にいた家族。それが、急に会えないとなると、初めは少し不思議な感覚になりました。また、私はその時、改めて家族の大切さに気付きました。

いつも、どうでもいい私の話を聞いてくれる姉と妹。毎日、私の面倒を見てくれるお母さん。毎日、仕事を頑張ってくれているお父さん。私の夢のために、いろいろ話し合っ、応援し送り出してくれたお父さんとお母さん。それを、明るく迎え入れてくれたおじいちゃんとおばあちゃん。全ての人に感謝です。

今は、毎日のお母さんと電話をしています。離れているけど、テレビ電話で話していると、すぐそこにいるような気がして安心します。伯方島でも、おじいちゃんとおばあちゃんに迷惑ばかりかけているのに、いつも面倒を見てもらい感謝しています。私をいつも応援してくれている全ての家族に、将来恩返ししたいと思っています。

